

## I-B-28 慢性関節リウマチ(RA)に対する柴苓湯の効果 (第3報)

中勢総合病院 整形外科

○大萱 稔, 藤井一郎, 尾池徹也, 富田良弘, 中瀬古 健, 稲田 均

目的・RAの原因は不明であるが, その病因には免疫異常の関与が考えられている。前回我々は西洋薬で治療管理されているRA症例に対し随証的に柴苓湯を併用し, その結果臨床症状の改善が得られ長期にわたって持続していることが認められた。今回はさらに併用されている抗リウマチ剤(DMARDs)の各種群についてもその臨床効果を検討した。

対象ならびに方法・柴苓湯証と判断されたRA 47例(男11例, 女36例)で年齢は41才から79才(平均61.3才)であった。柴苓湯エキス剤(ツムラ)を6.0から9.0g/日を併用投与した。その投与期間は9ヶ月より37ヶ月であり, 33ヶ月以上が29例を占めていた。全例に非ステロイド性抗炎症剤(NSAIDs), 38例にステロイド剤, 34例にDMARDsが投与されていた。柴苓湯投与後の臨床評価, また併用DMARDs(リウマチ群16例, 金群23例)について検討を行った。

結果・リウマチ炎症に対する効果では前回同様, 関節活動点数は投与後3ヶ月より( $p < 0.01$ )有意に減少し33ヶ月まで持続していた。総合評価であるランスバリー活動性指数(L. B. Index)は投与後6ヶ月より33ヶ月まで統計学的に有意に減少した。臨床検査ではRAHA値が投与後12ヶ月より33ヶ月まで統計学的に有意に減少し, NAG 活性値も同様6ヶ月より33ヶ月まで有意に減少した。またL. B. Indexの改善率での総合評価ではリマチル群で10%以上に改善したもの8例, 10%以上に悪化したもの7例であった。金群ではそれぞれ改善したものの15例, 悪化したもの8例であった。またステロイド剤の離脱が4例に, 減量が6例にできた。免疫学的検査ではリンパ球サブセットの解析でサブレッサーT細胞の増加傾向を認めた。

考察ならびに結論・RA患者に柴苓湯を長期に併用投与し, 臨床所見の改善が認められた。しかしDMARDsとの併用(リマチル, 金)においてその臨床効果に一定の見解が得られなかった。悪化例については柴苓湯証の不一致, 証の変化によるもの, また, DMARDsの不応なのか, RA 炎症そのものの増悪によるものか明確ではなく今後の検討が必要と思われる。しかし適切な症例の選択により柴苓湯がRAの薬物療法に有利に働いていることは無視できないと思われる。